

はじめに

宮城学院女子大学キリスト教文化研究所共同研究「多民族社会における宗教と文化」は、2014年度の活動として、2回の公開研究会および1回の公開シンポジウムを開催した。公開研究会には、本年度から客員研究者としてご加入いただいた木曾恵子氏を始めとして、学外からも複数の気鋭の研究者をお招きした。研究会については、アジア地域研究の領域において新たな研究テーマに果敢に取り組んだ発表をもとに、充実した議論を展開することが出来た。また、公開シンポジウムについては、大学生や高校生といった若い世代の幅広い聴衆を対象に、観光研究の面白さの一端が伝えられるユニークな内容とできた。

本年度に開催された公開研究会および公開シンポジウムの詳細は、以下の通りである。

2014年7月14日（日本文化人類学会東北地区研究懇談会との共催）

「東北タイ農村における女性血縁ネットワーク：労働とケアをめぐる」

木曾恵子氏（宮城学院女子大学非常勤講師、キリスト教文化研究所客員研究者）

2014年10月4日（本学国際文化学科との共催による公開シンポジウム）

公開シンポジウム「海外観光地を支える日本人：アジア諸国の観光業界で働く日本人の仕事と人生」

「世界一のビーチで、偶然働く：フィリピン・ボラカイ島の日本人観光産業従事者たち」

東賢太郎氏（名古屋大学准教授）

「日本と中国をつなぐ：中国広州市の日系旅行会社で働く」

田中孝枝（東京大学大学院博士課程）

「趣味の延長？ 遊びを仕事に？：タイ・プーケット島のダイビング・ガイド」

市野澤潤平氏（宮城学院女子大学准教授）

2015年1月31日

「焼物職人の誕生：東北タイにおける焼物の産地形成から」

中村真里絵氏（国立民族学博物館外来研究員/岡山理科大学他非常勤講師）

「マイクは鉄よりも強し：東北タイ農村社会のモーラム芸能にみる雇用創出」

平田晶子氏（神田外語大学非常勤講師/東京外国語大学大学院博士課程）

これらのうち公開研究会における発表について、その内容を発表者に改めて論文として書き下ろしていただき、今号に掲載する運びとなった。執筆者には多くのご苦勞をかけることとなったが、無事に3本の論考が『多民族における宗教と文化』に掲載できたことを、感謝したい。

共同研究代表 市野澤潤平